

自己評価表（令和2年度）

愛媛県立東温高等学校

学校番号 26

教育方針	1 学科の特質と生徒の実態に即した特色のある教育を、地域との連携を保ちながら展開する。 2 自ら学び、自ら考える力を育て、一人一人に「確かな学び」を獲得させる教育を実践する。 3 公共の学びや体験活動に努め、広い視野を持って時代を拓く人間性、社会性の育成を図る。	重点目標	生きる力をはぐくみ、共に学び高めあう教育の推進 —社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成を目指して—
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校全般	学校生活への支援	誰一人取り残されることなく、全ての生徒が楽しく有意義な学校生活を送っていると感じるよう、あらゆる教育活動で支援に努める。	A	多くの生徒が楽しく有意義な高校生活を送ることができている。また、そのように満足できるよう支援することができた。全ての生徒が充実し、満足のできる学校生活を送れるよう一層の工夫を考えている。	授業を中心とした基本的な学習習慣定着に向けての意識づけを大切に、学校行事に対する工夫や特別活動の精選など魅力的な学校生活の実現を図る。
	教育課程の編成	運用上の問題点について対策を検討し、生徒の多様な進路希望に応じた教育課程について、新教育課程の編成とともに理解を得られるよう工夫し、より効果的な内容を目指す。	A	新教育課程の編成において、本校生徒の進路希望の実情を踏まえた効果的な教育課程となるよう、各教科、各課の代表者を中心に全教職員の意見をまとめることができた。	今年度、検討した新教育課程への移行に伴う類型の設定が生徒の希望に即したものとなるように、教育課程研究委員会で意見交換を行う。
学習指導	教科指導の充実	授業を最重視した学習習慣を確立させるとともに、全ての生徒に「わかる授業・おもしろい授業」を推進する。	B	授業評価を確認すると多くの項目で高評価である。しかし、授業における予習や復習を徹底させることについては指導の必要があり、授業内容の理解について、生徒に対する意識付けが必要である。	Wi-Fi環境の利用を含め、授業内容の習熟に向けてICT教育の充実に向けて工夫を行う。それらを含め、生徒の興味・関心を喚起する授業の在り方を研究する。
		家庭学習時間の確保や授業改善を目的として共通実践月間目標を設定し、授業と家庭学習の一体化を図る。	A	毎月、共通実践月間目標を設定し、全教室において前黒板に提示することとした。授業と家庭学習の一体化に向けて、生徒の意識づけのきっかけとすることができた。	担任を中心に学年団との連携を図り、各類型・コースにあった質の高い指導を行っていくために教職員同士の情報交換を大切にするとともに、学年会等で有意義な方法について検討する。
進路指導	進学指導の充実	基礎学力を定着させるとともに、各類型・コースの特性を生かし、自己の在り方や生き方を考えた高い目標を設定させ、自己実現に向けて粘り強く挑戦させる。	B	人文・理数・英語理解類型在籍の81名(82%)の生徒が大学入学共通テストを受験した。その他の類型・商業科では、12月末時点で、進学希望者の93%が進学先を決定している。	生徒に高い目標を持たせ、進路に対する意識を高めるとともに、担任・学年団と連携を取り、各類型・コースにあった質の高い指導を行っていく。
	就職指導の充実	就職に必要な学力や人間性を養わせ、インターンシップや企業見学などへの積極的な参加を通して正しい職業観を身に付けさせるとともに、地域や社会に貢献できる人材を育成する。	A	企業見学を奨励し、早い段階から履歴書の作成や面接指導を充実させた結果、12月末時点で就職希望者の100%が内定している。	確かな職業観を持たせ、望ましい生活習慣の育成と学力の向上につなげる。また、生徒への情報提供を迅速に行い、主体的・積極的な就職活動をサポートする。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心のこもった挨拶の励行、端正な身だしなみの徹底、交通安全教育の推進について、継続的に粘り強く指導を行う。	B	大半の生徒は基本的生活習慣が身に付いてきており、落ち着いた学校生活を送ることができた。ただ、コロナの影響で年度当初の指導が徹底できなかった。	日々の声かけと生徒への指導方法を工夫し、教員の共通理解・共通実践のもと、基本的生活習慣の確立に努める。
	生徒理解への取組	定期的に個人面談を実施し、生徒理解に努める。また、欠席が気になる生徒にはその都度、臨時家庭訪問を実施し、家庭との連絡を密にする。	A	担任と学年主任が中心となってきめ細かな指導を継続することができた。また、マチコミ、ロイノート等によって家庭、生徒との連絡が密にできた。	関係する教職員が一人または一部で問題を抱え込まないよう、学年団や各課との連携を密にしていく。
特別活動	学校行事の充実	新型コロナウイルス対策を十分に行った上で実施可能な学校行事を精選していく。生徒会執行部と連携を密にしながら生徒自ら主体的・意欲的に参加する態度の育成を図り、充実感や達成感を感じ取らせるように努め、活性化を図る。	B	体育祭・文化祭をはじめとし、感染症対策を実施しながら工夫した学校行事を実施することができた。生徒会執行部を中心とし行事に主体的・意欲的に参加する生徒も多く見受けられた。	生徒全体に広げていくことが大きな課題であり、企画段階から生徒が参加する機会を増やし、学校行事を活性化していくとともにリーダーシップとフォロワーシップを身に付けさせたい。
	部活動の充実	新型コロナウイルス対策を十分に行った上で実施可能な部活動の在り方を工夫していく。生徒自らが主体的に活動できる機会を増やすとともに、高い目標を目指し各大会において成果を出せるように努めるとともに人格の完成の確立を目指すしていく。	B	コロナ禍の中、大会の中止や縮小、練習での制限など制約が多くあったが、各部ともに工夫した活発な活動ができた。戦績については概ね目標は達成できた。	更に、高みを目指すために挨拶などの基本的なことを徹底し、人格の形成を目指したい。生徒数の減少に伴い、部員数が確保できない部が増加傾向にある。部の精選が喫緊の課題である。コロナ禍だからできることを探し、活性化に努めたい。

人権教育	人権・同和教育の充実	いじめを許さない学校・学級づくりに努めるとともに、生徒に同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を図っていくための実践力を養わせる。	B	コロナ禍の中、差別を許さない活動は実施できたが、いじめと思われる事例や様々な悩みへの対応は、まだまだ改善の余地があると思われる。	コロナによる差別を防ぐ努力を継続しつつ、いじめ問題では、早期発見・早期対応に努め、生徒課・教育相談課との連携を深める。
道徳教育	道徳教育の充実	生徒の道徳的実践力を高めるとともに、自他の生命を尊重する精神や自律・社会的連帯の精神を養わせる。	B	社会のルールやマナーを守る生徒の意識は向上している。ただし、清掃活動等は改善が見られたが、ほかの活動については今一步であった。	これまでの取組を地道に継続し、生徒の自尊感情を育成したうえで、義務を果たし責任を重んずる道徳的実践力の育成を目指す。
安全教育	安全教育の充実	安全に関する意識を高め、事件・事故を未然に防止する能力を身に付けさせるとともに、万一の際の事後対応能力を高め、学校や地域社会の安全に貢献できる資質を養わせる。	B	重大事件・事故の発生が無く、自転車乗車中のヘルメット未着用指導者数も減少したが、交通マナーの遵守等(特に乗車中の携帯電話の使用)、今一步であった。	自分の命は自分で守る意識をしっかりと持たせる。また、地域の安全や安心に貢献できる態度を育成し、更なる安全教育の充実に努める。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	会議の精選を行い、教職員の多忙感の解消や時間の有効活用に向けた。教職員の中には、熱心に教材研究や教科指導を行い、勤務時間外におよぶ勤務も見られる。	ノー残業デーが毎月1日設けられているので、心身をリフレッシュする時間を確保したい。また、書面会議の実施により、時間の有効活用を図っていく。
	職場環境の整備	毎月、衛生委員会を実施して、環境改善と教職員の健康増進に努める。また、健康講座や健康相談を定期的の実施することで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	A	毎月の衛生委員会において気になる教職員の心身の状況について情報共有し、声かけを行っている。また、管理医が健康診断結果を確認して抽出した人と希望者に、管理医による個別健康相談を行った。	職場環境の改善に向けて、教職員から要望を募っているが、アンケートを実施して更に充実させたい。

※ 評価は5段階 (A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった) とする。